

学校防災の礎に

大川小訴訟控訴審

市と県破棄求める

東日本大震災の津波で犠牲になった宮城県石巻市立大川小の児童の遺族が、市と県に損害賠償を求めた訴訟の控訴審第1回口頭弁論が29日、仙台高裁(小川浩裁判長)であった。遺族側は意見陳述で「第二の大川小を出さない礎となる判決にしたい」と訴えた。市と県側は書面で「大津波は予見できなかった」とし、賠償を命じた一審判決の破棄を求めた。

大川小訴訟の主な争点

	遺族側	県・市側	一審判決
津波の予見可能性	大津波警報や市の広報車の呼びかけで予見できた	津波浸水想定区域外に学校は予見できなかった	来報間を以て津波の予見は可能と認め、津波の発生を予見できたとして、損害賠償を命じた
避難	避難すれば容易に津波を回避できた	斜面が地震で崩れる危険性があった	避難すれば被災の可能性が高い
控訴理由	津波を予見した時点で避難を促す必要があったと主張	広報車の呼びかけの根拠が不明と主張	避難を促す必要があったと認め、損害賠償を命じた

「津波予見可能性」争点

東電強制起訴
公判前手続き

津波対策を怠り、福島第1原発事故を防げなかったとして、業務上過失致死傷罪で強制起訴された東京電力(東電)の元副社長(77)ら、旧経営陣3人の公判前整理手続き第1回協議が29日、東京地裁で開かれた。争点

や証拠の整理を行い、津波の襲来を3人が事前に予見できたかどうか争点となる。他の2人は、いずれも東電の元副社長、立地本部長を務めた武黒一郎元副社長らと関係が深い。過去の強制起訴事件のうち、元副社長らと関係が深い。過去の強制起訴事件のうち、元副社長らと関係が深い。

津波被害想定
664市区町村調査

津波被害想定
664市区町村調査

津波被害想定
664市区町村調査

私見創見 Thursday

年近くになるが、最近私にも「ゆとり教育世代は…」と違和感を口にせずにいられなくなった。

県立高校入試の合格発表があった夜、教室には合格した

自分なり・他人なり



山岡 篤

志学塾塾長

はたやま・あつし
1960年、八戸市生まれ。明治学院大卒。志学塾を運営しながら、全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに携わる。全国学習塾協会理事。

子も不合格だった子も全員が集まった。正念場で頑張った子、土壇場で逆転できた子、覚悟が定まるのが遅すぎた子。私はみんなの顔を見渡した。

「(A)を担いで(B)太郎」と書いた。子どもたちは一瞬戸惑っていたが、「さて、AとBに適切な言葉を入れよ」と指示すると、一斉にノートに答えを書いて鉛筆を置いた。

「(A)を担いで(B)太郎」と書いた。子どもたちは一瞬戸惑っていたが、「さて、AとBに適切な言葉を入れよ」と指示すると、一斉にノートに答えを書いて鉛筆を置いた。

子育て、教育に厳しさを

たいことは人それぞれという「自分なり」の考え方も確かに大切だ。しかし、それだけでは成長できない。人は自分の中にある言葉と他者の言葉

一人ひとりに発表させた。半数は「まさか担いで金太郎」と答えたが、他は見当も付かないのか、「段ボール担いで金太郎」「竿を担いで浦島太郎」「おみこし担いで桃太郎」と珍答を連発。教室は笑いに包まれた。

今日の合否は今日決まっても、入試は定員がある。「自分なり」の努力ではなく、「他人なり」の努力とすれば、きっと見つかるのだ。

親にとっても子にとっても、生活の中で、子どもがたくましく育つ教育環境にあるかどうかにかかっている。子が他者との関わりの中で多くの「気付き」を得て自我を形成して行けるように。

しかし、今は自由で豊かな生活の中で、子どもがたくましく育つ教育環境にあるかどうかにかかっている。子が他者との関わりの中で多くの「気付き」を得て自我を形成して行けるように。